

□開催日時

令和6年4月25日(木) 14:00~16:00

□開催場所

石川県庁11F 1109会議室(WEB 併用)

□委員名簿

区分	氏名	機関・所属・役職	出席 (方法)
学識委員	内田 太郎	筑波大学 生命環境系 教授(砂防計画)	出席 (会場)
	川村 國夫	金沢工業大学 地域防災環境科学研究所 教授(地盤工学)	出席 (会場)
	鈴木 啓介	国土交通省 国土技術政策総合研究所 土砂災害研究部 砂防研究室長	出席 (会場)
	堤 大三	信州大学 農学部 教授(砂防工学)	出席 (会場)
	丸井 英明 【委員長】	新潟大学 名誉教授(自然災害科学)	出席 (会場)
	柳井 清治	石川県立大学 生物資源環境学部 特任教授(流域環境学)	出席 (会場)
行政委員	村井 雅造	気象庁 金沢地方気象台 次長	出席 (WEB)
	松浦 直	国土交通省 北陸地方整備局 河川部長	出席 (会場)
	杉本 敦	国土交通省 北陸地方整備局 能登復興事務所長	出席 (WEB)
	荒木 浩一	石川県 危機管理監室 次長	出席 (会場)
	鈴見 裕司	石川県 土木部 参与	代理出席 (会場)
	中前 豊	輪島市 総務部長	代理出席 (WEB)
	田川 克彦	輪島市 建設部 技監	代理出席 (WEB)

(学識委員50音順、敬称略)

□議事

- (1) 河道閉塞の現状について
- (2) 対策工事について
- (3) 観測計画及び現在までの観測データについて
- (4) 土砂災害リスクについて



■各委員からの主な意見

【現場状況について】

- ・今回示された河道閉塞箇所寸法諸元は、検討上有用な資料である。
- ・湛水量の小さい河道閉塞箇所は対処しやすいが、大きな箇所では対応の規模が変わる。このため、湛水量が今後の工事計画を検討する上で重要な指標となるため留意すること。

【対策工事について】

- ・恒久対策工事にあたっては、河道閉塞の特徴、想定される現象やリスクなどを踏まえた対策の考え方を示すこと。

【観測計画及び現在までの観測データについて】

- ・これまでの観測データより、湛水位に30~40cmの変動があっても、河道閉塞土塊が移動したり、大きな浸食を受けたりしていないことが示された。
- ・今後も、工事の安全対策や警戒避難対策へ活用のため、河道閉塞土塊が湛水の越流による浸食に対してどのような状況にあるのか確認しながら観測を続けていくこと。

【土砂災害リスクについて】

- ・河床勾配が緩いため、土石流形態での保全対象までの流下は発生しないと考えられる。
- ・土砂災害リスクを踏まえて、今後の恒久対策について慎重に検討すること。